JA岡山 広報誌

はれっと Palette

地域によろこびの
種をまく

9
2020 September
vol.241

「TAC指導員の課題実践報告」
瀬戸内営農センターの取り組み内容

農を担う
ピーマン農家　薬師寺 林枝 さん

建部地区……10ページ

https://www.ja-okayama.or.jp/
JA岡山は、組合員募集中です!
耕そう、大地と地域のみらい。

TAC指導員の課題実践報告

JA岡山営農振興計画に基づいた各営農センターTAC指導員の課題実践計画と取り組み内容について、TAC指導員と農業者の声とともにご紹介いたします。

―瀬戸内営農センターの取り組み内容―

●瀬戸内レモン部会活性化について　●前島キャベツプロジェクト

広報　2つの課題実践計画を設定した経緯について具体的に教えてください。

祇園TACリーダー（以下、祇園）　せとうちレモン部会は、部会員約70名、面積約8ヘクタールで栽培しています。瀬戸内市では、昭和50年代に試験的に導入されましたが、昭和57年の低温による枯死で栽培が途絶えていました。その後、遊休農地対策で平成17年にレモン栽培を再開し、瀬戸内市とともに面積拡大に取り組みました。

沿岸地域を中心に作付面積も増え、収穫量も伸びています。出荷量の確保と品質向上による有利販売が求められています。特に、かんきつの特性である隔年の収穫量の差が大きく、収量が安定していないため、せん定などの基本栽培技術の見直しにより、収量・品質の向上を図り、農家収入の安定と併せて遊休農地の活用による面積拡大を目指します。

今田TAC指導員（以下、今田）　前島での新規就農者の確保を目的に、トータルサポート事業を活用した取り組みを、農家組合や岡山県、瀬戸内市と連携して行っています。牛窓地区をキャベツの産地としてアピールし、離島での就農につなげていきます。

広報　設定した課題について、どのように取り組みましたか。また、どのような結果が得られましたか。

祇園　園地巡回指導や講習会等を行い、適期防除・栽培技術の向上に取り組み、出荷量の増加に繋がりました。また、1月28日に部会員でレモン栽培の先進地である広島県の瀬戸田地区へ視察研修に行きました。そこで生産者との意見交換を行いました。

今田　岡山県や瀬戸内市が実施する就農希望者が集まるセミナーで、前島への就農相談を行い、農地の状況や島での生活について説明を行いました。また、就農希望者によるキャベツ収穫体験を実施し、就農へのイメージを深めていただき、就農に興味をもつ移住者もいます。

1月15日、前島フェリー乗り場で牛窓甘藍（かんらん）進発式を開催し、生産者の生産意欲向上を図りました。「牛窓甘藍（かんらん）」は牛窓地区の温暖な気候を生かして生産されるブランドキャベツで良食味なことでも市場から高い評価を得ています。

広報　2つの課題実践を遂行するにあたりよかった点、苦労した点について教えてください。また、課題や改善点はありましたか。

祇園　レモン栽培は、海沿いの園地が適しており、海から離れると寒波の厳しい年には若木が枯死することが多く、毎年、苗木の定植を行っていますが、目に見えた面積拡大につながっていないのが現状です。初期の定植から10年以上経過し、成果期に入った園地では、せん定や栽培管理の技術の再確認と栽培技術の向上による、収量・品質の安定が急務です。

また、地元産レモンを求める声が多く、部会と関係機関が連携して地産地消での新たな商品開発等に取り組み、地域ブランドとして育成していく予定です。

今田　離島のため、就農や定住についてはハードルが高いですが、瀬戸内市や農家組合の積極的な支援や補助金が受けられるため、新規就農の不安は少ないと感じています。

広報　部会・生産者からの評価はいかがですか。

祇園　病害虫防除の徹底が必要なため、講習会等での強い呼びかけや園地巡回を求める声が多いです。備前広域農業普及指導センター等と協力し専門的な資料も活用しながら幅広く指導を行います。

今田　岡山県や瀬戸内市とタイアップし新規就農者を募集するため、定住先の確保や生活面、農業のイメージなどを希望者に説明するなど受入体制ができています。前島での出荷進発式は生産者からも好評で、島全体が一丸となって新規就農者への栽培指導が行えており、盛り上がりをみせています。

農業者の声

TAC指導員の取り組み内容に基づいて活動されている瀬戸内営農センター管内の組合員さんにお話を聞きました。（敬称略）

レモン農家

㊟せとうちレモン部会
部会長

おの うえ だい じ
尾上 大治

昨年度は豊作傾向でしたが、レモン栽培は暖かい気候を好むので天候によって収量が大きく異なるのが課題です。部会では収量を増やし、ブランド化や6次産業化を目指しています。今年は先進地への視察を行いました。令和2年度では安定収量の確保のためにせん定方法や防除暦の見直しに力を入れたいと考えています。

㊟せとうちレモン部会

かわ さき たくみ
河﨑 巧

今年は暖冬の影響もあり、豊作の年でしたが秀品率が思っていたほど上がりませんでした。部会として初めて先進地への視察に行きましたが、秀品率が9割と高いことに驚き、せん定や病害虫の予防法といった栽培方法も異なっていたため、今後の参考にしたいと考えています。今後は防除暦の見直しを行い、それをTAC指導員と連携して適切な予防法を周知し、より収量が見込まれる儲かるレモンの像を作りたいです。

キャベツ農家

㊟牛窓キャベツ部会
部会長

おお た おさむ
太田 修

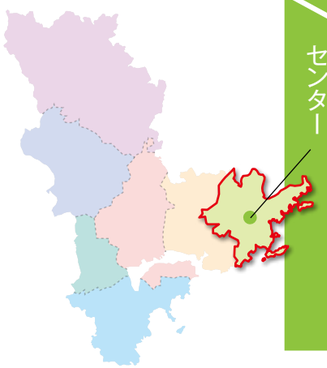
就農の研修受け入れ先として新規就農者へ農地を貸し、キャベツの栽培方法を指導しています。行政も定住に協力的で、市が定住のサポートをするので就農に対する不安も少ないと感じています。県外の就農フェアに積極的に参加すると、農業を志している方は多いので、積極的に呼び込んでいきたいです。

また、今年はブランドキャベツ「牛窓甘藍（かんらん）」の進発式を行いました。前島に住んでいる人にもよい刺激となり、新規就農者へ農地の提供や指導に一丸となって協力してくれています。キャベツを通してもっともっと島全体を盛り上げていきたいと思っています。

センター長に聞く

1年目の所感と2年目への思い

瀬戸内営農センター



広報　これまでのTAC指導員の活動評価ならびに今後の活動について期待することがあれば教えてください。

阿部センター長（以下、阿部）　課題実践について、手探りの状態からスタートしました。スケジュールを組んで関係機関と連携する等、ゴールはまだ遠いです。

今後は、単に作物の生産指導や作付拡大だけでなく、地域の活性化、生産流通や加工、ブランド戦略等、この地域ならではの物語のある取り組みにしてほしいです。

広報　今回、TAC指導員が設定した2つの課題実践計画について、現時点での取り組みについての評価を教えてください。

瀬戸内営農センター　センター長
あ べ こういち
阿部 浩一

阿部　遊休農地の利活用と農家収入の安定を目指して管内に導入したレモンは、隔年結果による収量不安定等の課題があり、優良事例や先進地の視察等により、部会の活性化を図り、「見て」・「聞いて」・「学ぶ」をスローガンに掲げて実践計画を策定しました。

レモン部会は「安定生産＋安定出荷＋販売ルート」の確立を検討課題とし、年度当初に関係機関の連携によるブランド強化対策プロジェクトで生産と需要がマッチングする取り組み目標を立てて、夏枝管理の実証や地元（市内）実需者に意見を聞く機会を設けるなど販売経路と栽培技術の確立を目指しました。

まだまだ道半ばですが、レモン部会との合意のもとで、安定した生産ロットの確保と並行してブランド戦略の策定までを協調しながら活動していく必要性があると感じています。

前島プロジェクトは、前島で新規就農者の確保と、キャベツの生産振興の両面をすすめていこうとするプロジェクトで、県・市とも連携してトータルサポート事業の対応や、就農セミナー・就農オリエンテーションの開催や移住フェアに参加し、新規のキャベツ生産者の確保と移住者確保に取り組みました。

前島地区内では、農家組合への取り組み説明や就農相談や産地見学対応を通じて機運の醸成を図り、前島のシンボルがキャベツであることのPRとして「牛窓甘藍（かんらん）進発式」を開催して、地域が一体となって取り組んでいこうとする足掛かりは実践できたと感じています。

次年度以降も、新規就農者の確保・キャベツの生産拡大、更には地域の活性化等、地域と一体となった継続した活動が必要と感じています。

広報　次年度の取組課題を設定するうえでの方向性やTAC指導員に取り組んで欲しい課題等があればお願いします。

阿部　是非、将来像が見えるような取り組みによって産地や地域を導いていってほしいと思います。

TAC指導員には、常に現場の最前線で「仕掛け」をすることが地域全体の活性化につながるとの思いで、地域を巻き込んだ達成感のある取り組みにしてほしいです。

多様な力がJAに、あるいは産地や地域に結集し、単に農業の領域だけでなく、次の可能性が生まれるような大きく象徴的な取り組みを期待しています。

予告

ぱれっと10月号ではTAC指導員の課題実践報告建部営農センターを掲載予定です。

農を担う vol.241

元気に農業を続け、安全・安心な野菜を作りたい

薬師寺 林枝さん

建部地区：ピーマン、ホウレンソウ農家

「やくしじ　もとえ」
昭和24年生まれ。㊫建部ピーマン部会建部地区副部会長、㊫建部法蓮草部会所属。ピーマン6アール、ホウレンソウ6アールを経営。趣味は花いじり。座右の銘は「健康第一」。

薬師寺林枝さん（左）と弟の景山俊さん（右）

7月20日、建部地区のピーマン農家薬師寺林枝さんにお話を伺いました。

ピーマンの収穫作業

岡山に戻り就農を決意

―就農したきっかけは

両親は米農家でしたが就農以前は県外で勤めていました。17年前に定年を機に岡山へ帰ってきました。その時、ピーマン部会が定年帰農者を対象に部会を設立したことを知り、誘いを受けました。健康維持のためにも親のほ場を引き継ぎ、ピーマン農家として就農しました。

―農業を始めてからは

最初は部会長を師匠に一から教えてもらいました。最初の2、3年は獣害被害が多く苦労しました。部会の講習会や視察、備前広域農業普及指導センターに教えてもらいながら試行錯誤を繰り返し、今ではエコファーマー認定を受けています。拍動灌水装置を導入し、ソーラーパネルで日照を動力に灌水と肥料散布を自動で行っています。自然の力を利用した効率のよい栽培が魅力です。防蛾灯で、予防の回数を減らし、安全・安心な野菜を生産しています。

ピーマンの栽培は姉弟で行っており、弟が収穫したものを私が選果しています。ヘタを切り、タオルで磨き等級別に分け箱詰めしていきます。分担してスムーズに作業を行っています。

ピーマンは1回の定植で霜が降り始める11月ごろまで栽培できます。裏作として冬場は土地柄にあった品目であるホウレンソウを栽培しています。

―楽しい点は

もともと花が好きで土いじりをしている時が楽しいです。土壌改良のためにほ場の周りにマリーゴールドを植え、病害予防をしています。ほ場を華やかにすることで、気分も上がり一石二鳥です。

元気に農業を続けていきたい

―今後の抱負は

健康維持のためにも80歳まで農業を続けていきたいです。できる限り手仕事に励み、収量を維持しながら家庭でたくさん消費してもらえるようなおいしいピーマンづくりに取り組んでいきます。

また、部会では新規生産者を募集しています。一緒にピーマンを作る新たな仲間とともに頑張っていきたいです。

聞き手：ＪＡ岡山広報担当

ひとつひとつ丁寧にヘタを切ります

姉弟で作業を行っています

楽しい家庭園芸

2020.09

お問い合わせ先
営農部指導課
Tel.086(225)3224

野菜

大カブは、秋・冬にピッタリの野菜です

営農部指導課
宮本 大輔

●大カブの栽培

古くから日本で栽培され、比較的冷涼な気候を好むため岡山県では秋・冬の栽培となります。

柔らかく味がよく染み込む秋冬にピッタリの野菜です（資料1）。

●畑の準備

播種の3週間前に10平方㍍あたり堆肥25㌔、苦土石灰1㌔施用します。播種5日前ころに野菜いちばん等を10平方㍍あたり1・5㌔を土とよく混ぜます。畝幅は2条播きで、1・3～1・5㍍とします（資料2）。

●播種

播種時期は8月中旬～9月中旬が適期です。

畝に2条の播き溝を切り、25㌢間隔に1カ所5～6粒程度播種を行います。

畑が乾燥している場合は前日に灌水を行ってから播種をします。播種後は5㍉程度薄く覆土を行い乾燥防止のため不織布等のべた掛けや切りわら等を敷きます。

●暑さ対策

発芽後から生育初期は、高温で生育がばらつくため、畝に不織布を掛け、乾燥防止・地温の低下を図る方法もあります。被覆期間は播種後2週間程度とします。

●間引き

カブは葉が生育してから根が肥大するので、残す株の選定が遅れると倒れやすくなります。

生育に合わせて2～3回に分けて行います。隣の葉が大きく重なりあわないような間隔で1回目は発芽がそろった時に、特に込み合ったところを間引きます。2回目は本葉が2～3枚の時、生育が不揃いのものを間引きます。最後に本葉が5～6枚の時に行います（資料2）。

●追肥

2回目の間引き時と本葉7～8枚の時に、野菜いちばん等を10平方㍍あたり200㌘を施用します。

●中耕と土寄せ

除草をかねて追肥直後と根の肥大時期に、中耕と土寄せを行うと肥大部の生育を促します。

土寄せが不十分の場合は根の上部が緑色に着色して品質が低下します。

●灌水

カブの栽培で問題になるのは裂根で、おもな原因は水分や養分吸収の差が大きく根部の肥大が内部と表面のバランスが崩れるため発生します。そのためにも、急激な土壌水分の乾湿の差は少なくなるように、適度に灌水を行います。

●収穫

品種により播種後2～3カ月で目安にします。収穫が遅れると、す入りになりやすいので注意します。

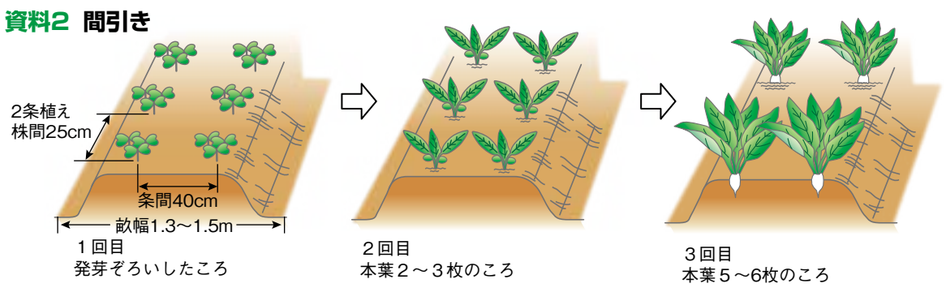
食べ方は、酢の物・浅漬けや煮物などに味わえます。

資料1 大カブの作型と品種

● 播種　▭ 収穫

月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品種
秋播き						●	●	▭	▭	▭	早生大蕪 聖護院大丸蕪

資料2 間引き



花き

宿根草をコンパクトにして冬越ししましょう

営農部指導課
中川 雄一

寒さに弱い宿根草をコンパクトにして冬越ししましょう。低温で株ごと枯れてしまったり、ひどく傷んだりする宿根草をたくさん屋内に取り込むのは大変です。ヘリオトロープ、ニューギニアインパチェンス、ペンタス、アメリカンブルー（エボルブルス）、オキシペタラム、フクシア、ハナスベリヒユ、サルビア、セージ類などの冬越しについて紹介します。

●刈り込み

ペンタスやニューギニアインパチェンスなど鉢植えの場合は、寒さに遭う前に1／3程度に刈り込み、屋内に入れて春まで管理します。多くの種類は日射しのある窓の近くが適していますが、真冬の窓際は温度が下がり過ぎることがあるので、5℃（できれば10℃）以上保てる場所に置きましょう。

冬の間は、温度が低く蒸散も少ないので鉢土もなかなか乾きません。水のやり過ぎで根を腐らせないように気をつけましょう。

●挿し木

大きな株も挿し木をして冬越しすると省スペースです。種類によって一概には言えませんが、まだ気温が20℃程度ある9月下旬か10月上旬ごろまでに行うと発根しやすいのであまり遅くならないようにしましょう。冒頭に取り上げた花は挿し木できます。

大まかな手順と注意点をあげますが、挿し穂の長さや、葉の残し具合は種類によって加減してください。

・用土：小・細粒鹿沼土や赤玉土、パーライトなどにピートモスを混ぜ、排水性をよくした清潔な用土か、新しい市販の挿し木用土などを、浅めの園芸用育苗箱か駄温平鉢に入れて灌水しておきます。

・挿し穂調整：花のついていない（あれば切り取り）元気な茎を5～10㌢程に調整（鋭利な刃物で切る）後、挿す部分の葉をとり、残った葉も大きいものは1／2か1／3程度に切り、葉面積を小さくします（資料3）。その後30分程度水あげします。

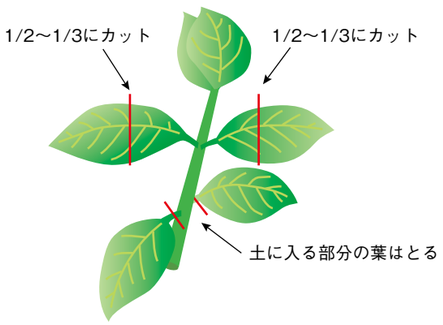
・オキシペタラムなど切り口から乳汁が出るものはよく水洗してから水あげします。

・用土に割りばしなどで挿し穴をあけ、葉が触れ合う程度の間隔で挿します。（挿す前にオキシベロン液剤の希釈液に基部を漬けると発根促進効果が期待できます。）風や雨、直射光の当たらない所に置き、たっぷり灌水し、その後は土が乾いたら灌水します。水が多すぎると発根不良になります。

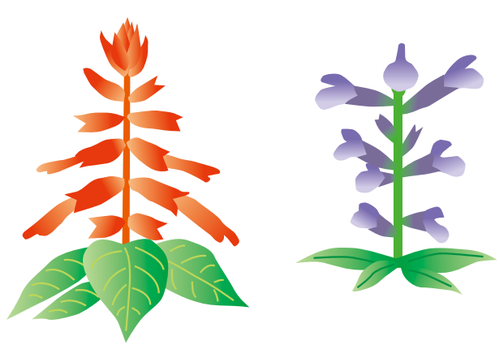
・条件や種類で違いがありますが、早いものでは2週間程度で発根しますから、徐々に陽に当て、低温になり過ぎない所で春まで管理します。

意外かもしれませんが、サルビアは原産地ブラジルでは多年草です。また、セージ類はいずれもサルビアの仲間で、挿し木できるものが色々あります（資料4）。花言葉は「尊敬」「よい家庭」などです。

資料3 大きい葉の挿し穂の調整



資料4 サルビア（左）と花弁がそっくりなセージの花（右）



果樹

9月は、露地ブドウや梨の収穫時期です

営農部指導課
小野 智寛

9月になると、露地ブドウや梨の収穫が本格化します。一方で、台風による強風や秋雨前線による降雨により果実の品質低下、落果や落葉が起こり、今年の果実だけでなく来年の生育まで影響することも懸念されます。まだまだ暑い日が続くので体調管理には十分注意して作業を行いましょう（資料5）。

また、P15にもあるように折込チラシとして果樹苗木注文書を入れております。ホームページからもダウンロードできますのでご活用ください。

●礼肥の施用

・収穫後のお礼肥

収穫後、樹は果実を成らして体力を消耗しています。礼肥を施し樹の体力を回復させてあげましょう（資料6）。礼肥は施用することで秋根の伸長を施します。秋根は〝貯蔵根〟とも呼ばれるほど貯蔵養分を蓄えてくれます。貯蔵された養分は翌年度の初期生育を促す効果があります。

ピオーネやシャインマスカットでは速効性化成肥料（例：NN高度化成604）を成木1本あたり1キロ程度、桃では樹の大きさにもよりますが1本あたり500グラム程度を施します。

礼肥は樹の状態を見ながら施すことが重要です。樹勢が弱い樹には1割程度施肥量を増やし、収獲後も枝が伸び続けている園地では施用量を控えるようにしましょう。

●収穫後の正常な生育って？

ブドウの場合、収穫後の生育診断で気にかけるべきは、伸長が停止していた新梢が再伸長しておらず、葉の色が緑色で病害虫の被害がないかという点です。これは、光合成生産の盛んな葉が大切で、冬季せん定で残す結果母枝の部分に養分を蓄えさせるということです。このような状態が10月ごろまで続き、その後葉色は淡くなり、11月から12月にかけて黄色の葉になり落葉するのが理想的です。

●収穫について

秋とはいえ、まだまだ残暑が厳しい時期です。日中の気温が高い時間帯に収穫を行うと果実温度も高くなり、収獲後の日持ちが悪くなります。そのため収穫は果実温度が下がった早朝に行うようにしましょう。

●台風対策

台風の襲来が予想されるときは防風ネットの設置や点検、明渠の設置や清掃、棚の補強など事前に対策を行っておきましょう。収穫可能な果実がある時は事前に収穫しておきましょう。

台風通過時は危険なので園地の見回りなどは避け、安全な場所で通過を待ちましょう。通過後は、安全を確保したうえで、樹の状況確認や園地の見回りを行い、必要な対策を行いましょう。

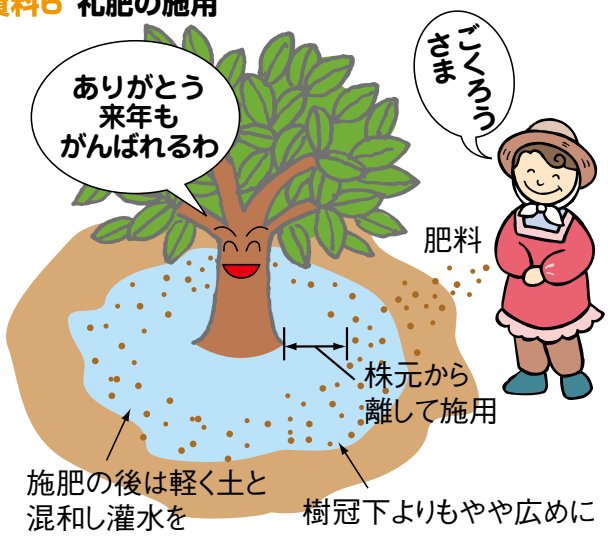
●灌水

この時期は、秋根が順調に伸びることや、施用した肥料の分解を促進させることが重要です。そのため、晴天が続く場合は3日～4日おきに灌水を行うことが重要です。

資料5　今月の主な作業

品　目	作業内容
ブドウ・モモ・梨・柿・リンゴ・イチジク	灌水、収穫、礼肥
梅・スモモ・ブルーベリー	灌水
ミカン	灌水、仕上げ摘果
キウイフルーツ	灌水、枝管理
ビワ	灌水、せん定（結果樹）

資料6　礼肥の施用



地域によろこびの種をまく
9
vol.241
2020 September
URL https://www.ja-okayama.or.jp/

Recipe
旬のレシピ紹介

簡単洋風玉子丼

作り方

(1) フライパンにサラダ油をひき、ひき肉をよく炒める。

(2) (1) に角切りにしたフルーツトマトを入れさらに炒める。

(3) (2) に水、ブイヨンキューブを入れ、中火で煮込む。

(4) フライパンの水分が3分の1になったら、卵を溶き回し掛けてとじる。

(5) 丼にご飯を盛り付け、(4) をのせアサツキを散らし出来上がり。

レシピ提供／永井智一（ながいともかず）
茨城県笠間市にある「天晴（旧キッチン晴人）」オーナーシェフ

材料（2人分）

豚ひき肉	120g
フルーツトマト	2個
鶏卵	1個
サラダ油	大さじ1
水	1カップ
ブイヨンキューブ	1個
アサツキ	小口切り適宜
ご飯	2膳分

Agrogram あぐろグラム 編集後記

JA岡山公式 Instagramをチェック!

今回のあぐろグラムではJA岡山公式Instagramを紹介します。管内のイベント告知や旬の情報、お得なキャンペーンの紹介などを発信しています。

2年前に開設し、投稿したらすぐに「いいね」やコメントをいただき、JA岡山のファンをとても身近に感じるようになりました。

大好きな地元、地域を盛り上げる未来への種まきとして、Instagramを通じた地域情報の発信をこれからも続けていきます。

右記のQRコードからチェックしてみてください。

JA岡山公式Instagramはこちら!
@jaokayama_official

編集担当　久山 隆一

発行／岡山市農業協同組合　〒700-8535 岡山市北区大供表町1-1
発行人／太田　誠一　編集／総務部総務課　TEL086(225)9846